

京都からいいこと、いろいろ——

平成20年3月1日発行 月刊「茶の間」
第29巻3号(早春号/通巻333号)
毎月1回1日発行
昭和56年1月7日第3種郵便物認可

茶の間の月刊

3

2008
早春号

定期購読料=1年分(12冊)1,050円
(本体価格1,000円+消費税50円/送料含)

■おいしい京都
風景のある
レストランへ

■京を装う
春は和物で
京和傘と誂え足袋

■京の四季彩

着物で巡る弥生の京

■ひなの節句に
工房『朋』の人形

■小池栄子





【写真 上】 一本の竹を割って作られた計48本ずつの傘の枠組みである親骨と小骨を熱り糸で連結させていく作業。手で一本一本丁寧に繋いでいく。

【写真 下】 和傘のメインとなる和紙を張る前に、和紙で「中置き（なか置き）」と呼ばれる部分を貼る作業。糊をきちんと定着させるため、一カ所ずつ丁寧に手で押さえつけていく。

人形寺の愛称で名高い京都市上京区の宝鏡寺の門前に、和傘作り一筋百余年の「日吉屋」はあります。趣きあふれる店内には、広げると三メートルもあるという大きな傘から飾り用の可愛らしい小さな傘まで、所狭しと並べられています。

「京和傘の骨組みの構造や華やかな色合いに魅了され、可能性を感じ、この世界に入ったんです」と同店で五代目の当主を務める西堀耕太郎さんはおっしゃいます。

現在、同店で傘作りに関わる職人さんは、西堀さんを含めて四人と少数ですが、昔ながらの伝統を大切に一つひとつ手作業で作られます。素

五代に渡り受け継がれてきた日吉屋の和傘。京の街に見事に調和するその美しさに魅せられて。

材にもこだわりがあり、和傘に使用する和紙は、和傘作りの為だけに京の和紙屋さんに漉してもらっているもの。原料には、クワ科の落葉低木である楮の樹皮の繊維を100%使用しているため、市販のものとは違い、丈夫で破れにくく、防水性にも優れています。さらに、水に濡れたときに色落ちしないように、和紙をあらかじめ染色液で漉いたり、完成前には和紙に洗いをかけるといった徹底ぶりです。また、和紙を貼り合わせる糊には、なんとタビオカ粉が使われているというから驚きです。そんなこだわりの素材を使った和傘作りですが、工程の中で一番難し

く神経を使うのが、傘の枠組を竹で作った後、和紙を貼っていく作業だそうです。他の工程とは違い、やり直しがきかない上に、相手が竹という自然素材であるため、一本一本しなり方や条件が違い、扱いが難しいのだとか。この作業は、毎日の作業の中で積み重ねた感覚的なものが大きいとのこと、熟練の職人技が必要とされます。

「お客様の「良かったよ」という声や祇園祭に使われる和傘の修復を行ない、それが実際に祭りで見られると、伝統の保護に役買っていると感じますから、嬉しいですね。和傘作りは、奥深くやってて楽しいですよ」

西堀さんは、古い和傘作りの伝統を守りながら今日も作り続けます。

先祖代々受け継がれてきた和傘作りの道具。年季の入った木や鉄の色が歴史と伝統を物語っている。



京和傘 日吉屋

お花見の席や着物のお供に、そっと華やかさを添えてくれる京和傘。今や京都では一軒となった和傘を作り続ける「日吉屋」を訪ね、代々受け継がれる伝統の技と和傘の数々を見せていただきました。

完成した和傘は、宝鏡寺の境内にて天日干しされる。赤、青、華やかな光景は、まるでお花見を見ているかのよう。





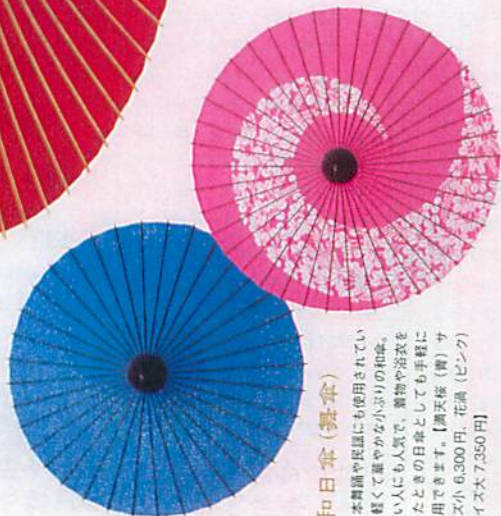
京和傘

いろいろ

野点傘に番傘、蛇の目傘。目にも鮮やかな色彩で色とりどれた目吉屋の京和傘をご紹介します。

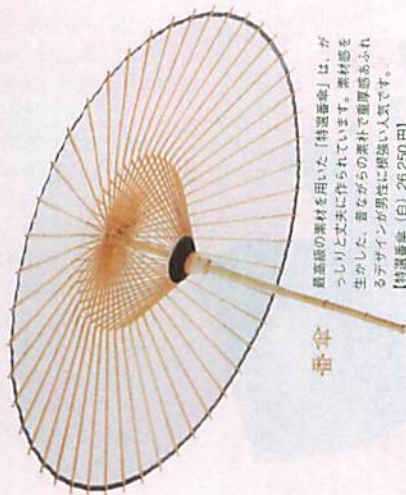
本式野点傘

茶道茶室に用いられる伝統の逸品で、日本古来の「わび・さび」の文化に相応しい美しいデザインを持つ本式野点傘。京和傘の頂点に立つ伝統工芸品です。
【本式野点傘(舞袖)傘 123,480円】



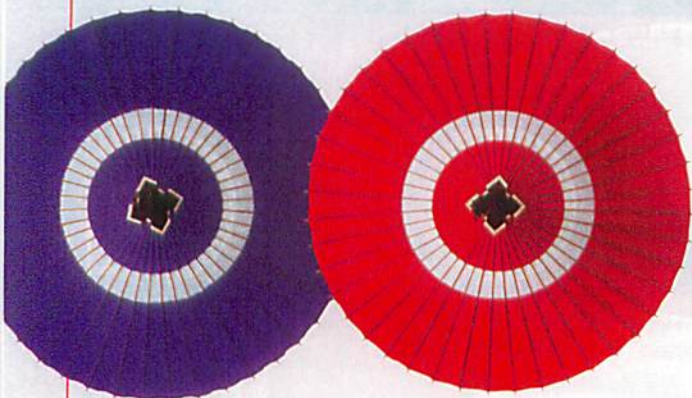
和日傘(舞傘)

日本舞踊や民謡にも使用されている軽くて華やかな小ぶりの和傘。若い人にも人気で、着物や浴衣を舞臺などの日傘としても手軽に使用できます。【舞天板(舞)傘 サイズ小 6,300円、花満(ピンク)傘 サイズ大 7,350円】



番傘

最高級の素材を用いた「特選番傘」は、がっしりと丈夫に作られています。素材感を生かした、華やかならぬ素朴で重厚感あふれるデザインが男性に特選人気です。
【特選番傘(白) 26,250円】



蛇の目傘

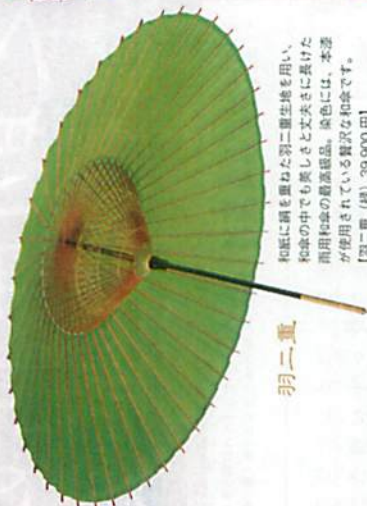
細身で軽く、きれいな装飾が施された美しい和傘で、色染めした竹で作られた骨組みと高級五重山(ごかやま)和紙の色が相まって、とても上品。和風の強さに応じて傘の骨組みを二段階に調節できる頑耐用意なので、とても便利です。
【蛇の目(中入) 紫白、赤白 各 29,400円】



DATA

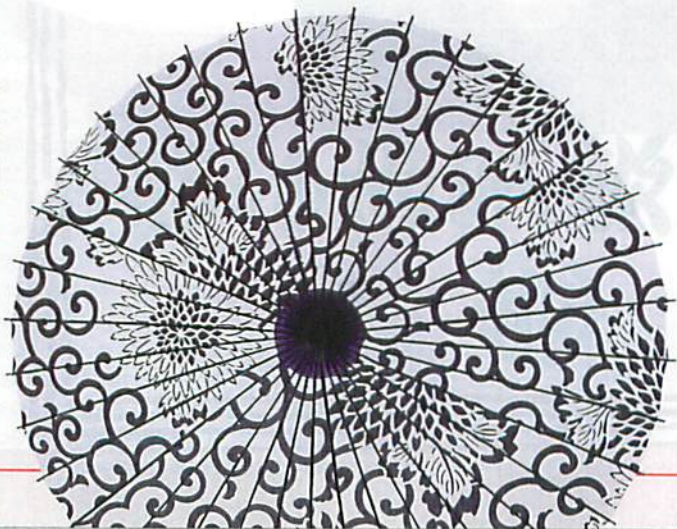


【住所】京都市上京区寺之内通堀川東入百々町 546
【電話】075-441-6644
【FAX】075-441-6645
【HP】<http://www.wagasa.com/>
【営業時間】10:00-18:00
定休日：月曜日
※掲載商品の他にも色違い、サイズ違い等もございます。また、工務・見学・ミニ和傘体験工房も行なっています。お問合せは、産部問合まで。



羽二重

和紙に絹を重ねた羽二重生地で用い、和傘の中でも美しく丈夫さに優れた用途和傘の最高級品。染色には、本漆が使用されている高級な和傘です。
【羽二重(緑) 39,900円】



布日傘京のてんでん唐草

和紙の代わりに京でぬいぐるみを張りつけた使用した和日傘。白地に唐草の模様がモダンで、個性あふれる逸品です。
【布日傘京のてんでん唐草(白) 15,225円】